

平成26年度 部局自己評価報告書（学術資源研究公開センター）

Ⅲ 部局別評価指標

- 1 東北大学グローバルビジョンにおいて各部局が定めた「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策または部局第2期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果
 ※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

【総合学術博物館】

1. 特筆すべき研究(Vision 2)

(1) X線CTシステムの活用：

学内共同利用設備の高解像度X線CTシステムを活用し、学内外の多数の研究機関と共同研究に加え、産学共同による学術標本に適するX線CT技術の開発を進めた：共同研究機関には、本学理学研究科（隕石及び火山岩成因・岩石破壊）、生命科学研究科（鳥類胚発生）、附属植物園（古代布）、日本海洋研究開発機構（海洋酸性化モニタリング）、東京大学/中国北西大学（カンブリア紀動物胚化石）、米国スミソニアン博物館（浮遊性有孔虫）、下関市ホテルの里ミュージアム（昆虫）などがある。

(2) 震災復興研究への貢献

復興関連研究を推進し、高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所、国立科学博物館、北海道立地質研究所との共同研究を進め、環境省モニタリング1000による福島県松川浦調査、東北マリンサイエンス仙台湾採泥調査を行っている。

(3) 3Dバーチャル画像システムの研究開発：

本装置の研究開発をキャノンマーケティングジャパン、電通国際情報サービスと行い、震災遺構の記録の高精度化・高解像度化を進めている。

2. 研究の実施体制等整備(Vision 2)

(1) 米国スミソニアン自然史博物館との協力：

米国スミソニアン自然史博物館との3次元画像システムを活用した研究及び災害教育・災害展示に関する国際的な連携協力体制の構築のため協議を行い、平成26年度国連防災会議における共同事業の実施に向けた準備を進めた。

(2) 国際深海掘削計画（IODP）の協力活動：

本国際計画（IODP）への協力としてJ-DESC コアスクール、MRC 研究集会を開催し、国内外の若手研究者の育成に貢献するとともに、航海研究に必要な微化石データベースの構築を行っている。

3. 社会との連携や社会貢献(Vision 5)

(1) 3次元バーチャルシステムを活用した震災遺構の記録と防災教育に関する貢献：

3次元バーチャルシステムを活用した震災遺構の記録を継続して行い、岩手県、宮城県、福島県における遺構記録の保存を行った。その成果をシンポジウム（河北シンポジウム：3月16日、高知シンポジウム：3月26日）等で公開することにより、防災教育に対する貢献を行った。その成果は、テレビや新聞等で報道され、高い評価を受けた。

(2) 企画展示の開催：

a) 大学広報課と協力し、片平エクステンション棟における常設展示、ノーベル賞に関する特別展示「Sketches of Science at Tohoku University」のパネル作成など、積極的に大学のアウトリーチ活動に対する協力を行っている。

b) 東北歴史博物館・福島県立博物館と連携し、「考古学からの挑戦-東北大学考古学研究の軌跡」を開催し、6回の普及講演会を実施した（東北歴史博物館：2013年7月13日～9月8日、福島県立博物館：10月5日～12月1日）。

c) 日本鉱物学会・日本粘土学会・日本結晶学会・国立科学博物館と連携し「北川隆司鉱物コレクション展-教授を魅了した大地の結晶」を開催した（東北大学理学部自然史標本館：2014年3月1日～4月12日）。

d) 仙台宮城ミュージアムアライアンスと連携し、SMMA スタンプピクニック（2013年4月～7

月)、体験プレゼント「体験教室!自分だけの化石レプリカ」(自然史標本館:8月31日)、仙台宮城ミュージアムユニバース(せんだいメディアテーク:12月20・21日)を本学学生による「みちのく博物楽団」の参加により実施し、本学学生の社会連携・社会貢献の新しい学びの機会を作った。

- e) 東日本大震災による被災博物館の支援活動として「南三陸は魚竜化石の宝庫2」を南三陸町と連携して開催した(南三陸町平成の森アリーナ:8月8~9日)。
- f) 小田原青少年被災地スタディーツアーに対して協力(7月26日、災害科学国際研究所と共催)し、中~高校生30人に防災教育を行った。

【史料館】

1. 社会との連携や社会貢献 (Vision 5)

(1) 公文書館機能の充実と本学文書管理制度改善への貢献:

史料館公文書室として「国立公文書館等」としての内閣総理大臣指定を受けており、平成26年度は本学歴史公文書約110点を受け入れ、約600点を新規で公開した。また本学の公文書管理システムの合理化、その改善策を総務企画部法務課と共同で検討しており、26年度以降順次実施していく予定である。

(2) 大学史関係資料の収集整備:

卒業生その他の資料を基盤とした「校友アーカイブズ」の一環として、日本初の女性大学生である黒田チカの関係資料を受け入れ、その公開に向けた準備を開始した。その他にも卒業生資料等の収集を実施した。

(3) 展示会・講演会等の実施(所蔵資料や保有する歴史情報を基盤とした、大学アイデンティティの共有と社会貢献):

- a) 史料館創立50周年を記念した公開シンポジウム「これからの大学と大学アーカイブズ」を開催(9/29)し、アーカイブズを活用した大学改革や社会貢献の可能性について普及啓発をおこなった。
- b) 災害復旧を兼ねた耐震工事を契機に、「東北大学の顔」として大学の歴史に関する学内外への情報発信の場となる常設展示のリニューアルを実施した。常設展示に加え企画展示を実施し、大学情報の社会への発信を積極的に進めた。
- c) 「東北大学女子学生100周年記念事業」の一環として「女子学生の誕生—100年前の挑戦—」展を開催し、男女共同参画推進事業の啓発普及に協力した。

(4) 研修・教育活動の実施(教職員学生による大学アイデンティティ共有の推進):

職員研修において講義「東北大学の歴史」をおこなった。また全学教育科目の一環として「東北大学のひとびと」を開講した。

【植物園】

1. 特筆すべき研究 (Vision 2)

1) 生物多様性保全に向けた研究活動:

- a) 世界の研究機関との標本および種子交換: 世界の植物園では、自らのコレクションの充実を図るため、互いに種子および標本を交換する事業を行っている。本園もこのネットワークに参加しており、2013年度は、種子交換事業では21カ国の研究機関に当園で採集した種子を研究試料として送付した。標本交換事業も、国内外の研究機関から、1000点以上の標本受け入れ、発送を行った。
- b) 環境省モニタリングサイト1000事業への協力: 環境省のモニタリングサイト1000事業に協力し、東北地方の低地に特有の森林である青葉山のモミ林のモニタリングを継続している。この結果は、地球環境の変化が生態系にもたらす影響を早期に検出し、必要な対策をとるための基礎情報として貴重である。
- c) 絶滅危惧植物生育外保全への協力: 宮城県東松島市の宮戸島の復興事業への協力として、生育地の減少が予想される絶滅危惧植物について生育域外保全として、植物園による移植・保全活動を実施した。

2. 社会との連携や社会貢献 (Vision 5)

1) シンポジウム・展示会等の活動

- a) 震災復興に向け、生態系に焦点を当てたシンポジウム、公開講座の開催: 東日本大震災の津波により引き起こされた生態系への影響を一般市民へ普及する場として日本植物園協会

と協力し、植物園シンポジウム「津波被災地における絶滅危惧植物の保全を考える会」(主催 公益社団法人日本植物園協会 共催 東北大学学術資源研究公開センター植物園 後援 国連生物多様性の10年日本委員会、東北大学、東北地方環境事務所)を2014年2月22日に東北大学片平キャンパスで開催した。さらに、2014年度の公開市民講座として「津波が生物多様性に与えた影響」を全6回、植物園で開催している。

- b) 植物園ガイドツアーの開催: 5月～7月、9月～11月にかけて、職員による植物園内のガイドウォークを7回実施し、78名の市民が参加した。
- c) 植物園の日イベント開催: 植物園では5月4日(みどりの日)にイベント「みどりの日は植物園の日、植物園へ行こう!」(主催:植物園、後援:日本植物園協会)を実施した。当日は、植物園施設の無料開放、職員によるガイドウォーク、市民団体や東北大学リコーダーアンサンブルによるミニコンサート、雀踊りが行われ、972名の入園者があった。
- d) 紅葉の賀のイベント開催: 植物園では11月3日(文化の日)に植物園、文学研究科と共催で、市民オープンキャンパス「紅葉の賀」を行った。当日は、植物園施設の無料開放、野点(植物園)、文学研究科と植物園の教員らが園内の植物・史跡を案内するガイドウォーク(植物園)、東北大学文学研究科教員による尺八演奏(植物園)、公開講演会(文学部第一講義室)、高校生のエッセーコンテスト(文学部第一講義室)を行われ290名の市民が参加した。
- e) 小学生向け自由研究相談コーナーの開設: 7月17日～8月31日に小学生を対象とした植物に関する自由研究の相談、質問コーナー「夏休みお助け隊」を開設した。
- f) SMMA イベントへの協力: 仙台・宮城ミュージアムアライアンス(仙台市教育局)主催イベントへの協力として、4月の見験楽学ミュージアムバスツアー2013で、植物園内のガイドツアーを行った。
- g) 植物園 Facebook ページの開設: 新たな市民への情報発信・情報交換の場として、9月から植物園公式 Facebook ページを開設し、随時、園内のトピックスやイベント情報を発信して好評を得ている。